

今日も

提督は、

まだ

童貞

To the Basilica of the Chastity

R-18
Adult Only



今日も
 提督は、
 まだ
童貞
 To the Basilica of the Chastity

「オイイイイ〜ツス!」と奇声を発しつつ、新たな提督が鎮守府に着任した。「俺は上級提督だ」と嘯く謎の男。

艦娘で童貞を卒業するという野望を持ち、深海棲艦襲来の混乱に乗じて、勝手に着任しに来た危険人物である。

勿論、敵と戦おうとか、国を守ろうとか、そんな事は一切考えていない。そもそも難しい事は全くわからない。

童貞さえ捨てられればいいのだ。艦娘とやりまくればいいのだ。それが俺の夢なのだ!

「またイベント海域で沼ってるの？
大丈夫？おっぱい揉む？」

そう言うと鹿島は衣服の前ボタンを外し、
ブラウスの間に手を入れ、自ら揉るんつと
弾けるようにたわわな乳房を晒し出した。

前かがみになり俺の目の前で
見せつけるように身体を
いやらしく拗らせる。

その動きにつられて、踊るように
柔らかな乳房が揺れる。
白く、形の良い、張りのある美乳…。

挑発的な鹿島の態度に俺は堪らさず、
乳房を驚かすほど、一気に吸い付き、
紙め、しゃぶりついてやった。

童貞チ○ポを食い荒らす淫魔め…。
俺は軽く口で扱かれただけで、
五回ほど絶頂してしまった。

挿入は、まだ一度もない。

新艦の堀りが沼って三日目…。俺は龍田の部屋に向かい、入るなり彼女をベッドに押し倒す。

「私で、ストレッチ解消ですかあ…？
そういうの、良くないと思いますよお。」

聞く耳も持たず、龍田の上に跨ると、荒っぽく衣服をつかみ、強引に剥ぎ取ってやった。

ほとんど裸にしてやった全身にキスをし、舌を這わせ、舌で舐め回す。

胸に手を伸ばすと、想像以上に柔らかい胸に、指が食い込んでいく。

「あつ…駄目ですよ、提督…。そういう事は、ちゃんと順序を踏まないといけませんよ…」

龍田も快感を感じ出したようで、身体が敏感に反応している。

下着が、汗か愛液か、しっとりと濡れている。

俺は我を忘れて、龍田の股間をぐちゅぐちゅと強引にまさぐり、人生初の挿入を成し遂げようと惨めてみすほらしい童貞チ○ポを引っ張り出した刹那…

龍田の背後の槍が、一瞬光ったように見えた。

たまの半減休息。
度重なる戦闘での
疲れを癒すべく、
水着で遊ぶ艦娘たち。

白い肌、張りのある胸と尻……
どいつもこいつも、
目の保養に最適だ。
俺の目は艦娘たちに
釘付けになっていた。

「おいしい、提督も、
こっち来るっほい」

夕立が呼んでいる。

「やれやれ、楽しくはしゃぐ姿を
眺めているだけでも眼福だが、
たまには遊ぶのもいいだろう。
俺は泳げないが。」

……よく見ると夕立の水着から、
乳首がぼろりとはみ出している。

故二になり、急成長した
夕立の乳房の大きさと重みに、
去年までの水着は
小さすぎたのだろう……。

「どうしたの？ どこ見てるっほい？」

夕立はポロリに気が付いていない。
太陽の下、薄い桃色の乳輪と、
やや大きめの乳首が、
水滴に濡れてキラキラと
光り輝いて見える。

俺はそのツンと尖った
綺麗な色の果実を、
しばらく眺めていた。

「ここでおっぱいを
出せばいいんですか…?」

提督としての仕事や書類の事が
全くわからない俺は、
浜風を秘書官に呼んだ。

すると俺はまだ何も話してないのに、
浜風はそう言つて、恥ずかしそうに
服をゆるめたのだ…

なるほど、これが提督の仕事か。
なら、いやだろ。俺の仕事つづり、
まざまざと見せつけてやる。

浜風はゆっくりと襟を捲り上げ、
まるで俺に亵褻美をあげるように、
その間から大きな乳房をまろび出す。

頬を赤らめ、怯えるように
乳房を差し出す姿が、
いやらしくも愛おしい。

俺はその巨乳に指を食い込ませ、
本能のまま、激しく揉みしだく。
重く、大きく、柔らかい乳房。

指に絡みつくような感觸。
乳首もツンと勃起し、コリコリと固い。
俺はひたすら揉み、吸って、舐める。

さあ、次はいよいよ下半身だ…。
俺様の小さく惨めな童貞チ○ポを、
浜風に捧げるのだ。

…と思つた瞬間だったが、
その乳房のあまりの快感と刺激に、
挿入する前に、俺は果てた。

今日も俺は、まだ童貞だ。

俺はメンテナンスだと言いつつ、
気に入った艦娘の肢体に媚薬ローションを
塗り込むのを毎日の楽しみにしている。

甘い香りのする翔鶴の身体に
どほどほどローションを塗り込み、
その全身を媚薬浸けの
いやらしい匂いへと変える…。

桃色紐パン主義

大きな尻をヌルヌルした手で撫て回し、
股間にも忘れずたっぷり塗り込み、
ぐちゅぐちゅと音を立てて揉みしだく。

その刺激に、翔鶴も自然と
喘ぎ声が漏れ始める…。

さあ、このあとは、大量の
ローションに塗れた、
ヌルヌルセックスが
待っている…。

体中を性感帯へと変貌させた
翔鶴の肢体を弄び、喘ぎまくる姿を
楽しむとしようか。

その瞬間、敵機襲来の
警報が響き渡った…。

敵旗艦を撃沈し、
どうよー見たか！と、
自信たつぷりにドヤ顔を
こちらに向ける瑞鶴。

だがちょうどその瞬間、
突風が吹き、そのミニスカートが
一気に捲りあがり、履いていた
紐パンが丸見えとなった。

「ちょっ……！ わっ！ て！ 提督！
い、今の……、見たでしょう！」

真っ赤になって詰め寄ってくる瑞鶴。
おいおい、見たか！と言っていたのは、
そっちじゃないか……。

だが、その突風のせいか、
先ほどの戦闘のせいか、
紐の先がほどけていて……。

俺は帰港するまでの数日間、
目にした光景が脳に焼き付いて
離れなかった。

童貞を燻り続けて○十年…。
鬱憤が溜まっている俺は、
高雄を執務室に呼んだ。

そして入ってくるなり
強引に抱き付き、その大きく柔らかい
二つの山に顔を埋めてやった。

「てっ…、提督…!?!
あ、あの…ご用件は…
あっ…!?!…んっ…」

不器用な手で無理矢理に服をずり上げ、
丸出しになった乳房を後ろから揉みしだく。

心地良い美巨乳…。
感触、匂い、味、柔らかさ、
全て最高だ。

俺は強引に揉み続け、
むにゅむにゅと形を変える
乳房に、興奮する。

そのまま高雄の
尻めかけて射精した。

しまった。
今日も、俺は童貞だ。

重く暖かい感触を味わいながら、
人差し指と親指で乳首をコリコリとつまみ、
弾き、擦り、ひっかいてやる。

「てっ…提督…。
ダメですよ…!
あっ…」

その敏感な部分を何度も何度も
弄ばれると、高雄は静かに息を荒げ、
声を押し潰し、身悶えた。

俺は戦艦夏姫の尻が好きだ。

夏がくれば思い出す。はるかなお尻。遠い空。

俺は妄想する。

大きく張りのあるエロ尻…。撫で回し、引っぱたき、舐め回す。

かじつと驚つかみし、顔を擦り付け、匂いを嗅ぎ、舌を奥の奥まで挿れて、味を確認する。

たつぷりと唾液で濡らしてやったら、尻を持ち上げて、脚ごと強引に広げ、俺のモノを挟み込んでやる。

そのまま上級提督様のありがたい精液を尻にたつぷりと流し込んでやる。

「いや、そこはマ○コだろ！自分の叫び声で、目が覚めた。」

妄想まで、俺は童貞だった。

あの素晴らしい尻に会えるのは、また来年か…。

また会う日ツブまで。

本当はイ級の群れ。
でもアード姿の不気味さは
レ級っぽかった。

…ので、レ級で
描い…てみたー!

細部は色々
うろ覚えですが…。

「艦これサーカス」
見てきました! ので
感想イラストです☆

布状の空中ブランコ。幻想的だっ
ゆらゆら揺れて、深海っぽさと
怖さが表現されて綺麗…。

オペラグラスで見たので
色々アップで見れて感動…。

みんな女性。
顔もはっきり見えた。
みんな可愛い。

空中でロープを使った
アロバティックな動き&ボムジック!
すごい身体能力…すごかった!!

背景はプロジェクターで
海や空や色々変わった。

DVDかBDで
是非
円盤化を〜!!

どうぞん、好きに
描いて下さいですよ〜と、
友人の某レターさんから
個人的にいただいた写真より。

今回はパンツを
はいてて残念でした…w

明らかに酔っぱらって撮って
送ってきたっぽいので、ホーラで…w

お腹まわりがキレて
えろい肉つき。

寝そべって
横に流れる
おっぱいが
えっち…w

本当はもうちょっと
顔隠してた。

乳首キレテ

すごい巨乳さんです…w

可愛い方ですよ〜。

こういう構図は
モデルさんを見ないと
中々描けないので
新鮮…。

「ほら、しおん。早く足を開け。」

「ほ、本当にいいんですか…？ 知りませんよ…？」

「いいから、やれ。」

仰向けに寝転がる俺の顔の上で、
大きく股を開かされ、赤面しているしおん。

しばらく待っていると、俺の顔の上は
ポタポタと水滴が落ちてくる。

やがてそれは小さな滝のようになり、
大きな音を立てて俺の口の中へと降り注がれた。

「はたはたはた…」

「はしゃばしゃばしゃ…」

「がぼっ…！こぼぼっ…！！」
「ゴクンッゴクンゴクンッ…！！」

しおんは恥ずかしさのあまり、
苦悶の表情のように見える。

いい表情だ。見ていただけで堪らねえぜ…。

スク水の味、海の味、しおんの味…。
色々な味がまさり合い、なかなか形容が難しい。
だが高級なワイン以上に、香ばしい味なのだろう。

全く、最高だな。美少女の…。

の味ってやつは。



山城のやつ、運改修を
してやると仄めかしたら、
案の定、食いついてきやがった。

さつそく身体の……いや、
ステータスのチェックだと言い、
服を脱げと命令する。

普段なら断られる所だが、
今日は素直に服を捲くり、
一枚一枚脱ぎ始めた。

山城の美巨乳が露わになる。
寒さのせいかわ、ツンと勃起した乳首と、
重力に逆らわれない張りのある乳房。



さすがに恥ずかしいのか
顔は俯いているが、
白い肌、
桃色の大きな乳輪、
卑猥な乳首が、
堂々と俺の前に
晒し出されている。

身体のチェックのためなら、
何をしても許される。

さつそく柔らかい膨らみに顔を埋め、
舌を使い、揉みしだきながら
思わず吸い付いてしまう。

まあ、本当は運改修用のまるゆなんて、
一人も用意しちやいないんだけどな……。

見て見て〜
新しい下着
可愛くない〜？

ーって提督は
中身にしか
興味ないか



鈴谷的には
こっちも
おすすめだよ♡



「提督〜！水着を流されちゃった〜！」

見ると、両手でその豊かな胸を隠しつつ叫ぶ愛宕がいた。

とは言え、その乳首と乳輪は隠そうにも隠し切れず、はみ出すように手の間から覗いていた…。

本当に隠そうとしているのか、俺に見せつけているのか…。

愛宕は俺の顔を伺うように視線を送っている。

さて、水着を探してやるか、それとも、向こうの林まで連れ込んでやるか…。

どっちにするかな…。



- Epilogue -

2019年某月某日深夜、我が牛込局区内ポンキッキ鎮守府に、敵航空隊による空襲があった。被害は軽微であったものの、倒壊した一部施設の焼け跡から、提督の遺体が発見された。

死体は下半身だけ裸であった事から、何らかの事件性も考えられたが、
どうやら基地内の格納庫から女子更衣室への覗き穴を作ろうとしていた最中に
爆撃に巻き込まれたものと判明し、とりあえず5分程度で忘れ去られた。

鎮守府の艦娘たちからは、「あつ、そう」「ふうん」「それより次の海域では…」と、
追悼の言葉が寄せられ、童貞のまま死んだ提督の死を悼んだ。

だが、きつとまた変態提督は帰ってくる。
童貞を捨てるために、きつと帰ってくる…！
第二、第三の変態提督は、もうそこまで来ているのだ…。

■発行…2019年12月29日(C97)
■製作…ばななヴぁー(著者わた・るう！)
■印刷…(株)グラフィック

今日も
提督は、
まだ
童貞

To the Basilica of the Chastity



今日も提督は、まだ童貞

- To the Basilica of the Chastity -

わた・るうー with バナナヴァー

2019 winter

Banana-var presents.

Wata-Ruh's Kancolle Fan Art Book.

